



高崎の子どもは高崎で守る

高崎市児童相談所「ぱすてる」

10月に開所した高崎市児童相談所。愛称は「ぱすてる」に決まりました。今回は「高崎の子どもは高崎で守る」という強い決意のもと開設した同所について、児童相談所の職員や高崎警察署員、弁護士の方と一緒に、児童相談所の目的や意義、関係者や関係機関との連携についてお話しします。



「高崎の子どもは高崎で守る」強い思い

市長 児童虐待で一人として死なせない、「高崎の子どもは高崎で守る」という固い信念のもと、6年もの準備期間を経て、10月1日に高崎市独自の児童相談所を開所することができました。児童虐待の原因にはさまざまな理由があって複雑です。スムーズに解決することは難しいと思うので、粘り強く対応していかなければいけません。それでも子どもを死なせないという固い決意で取り組んでいけば、道は開けると考えています。まずは中山所長、児童虐待の案件は全国的に増えているのですか。

中山 全国的にも高崎市としても児童虐待が増加しています。深刻なケースや難しいケースが増えていると感じています。

市長 社会のストレスも多くなって、子どもに当たりたくなることもあるかもしれませんが、子どもを虐待することはあってはなりません。例えば、通報を受けて家庭を訪問した時に、簡単にドアを開けてくれないこともあります。しかし、そこで「じゃあまた来ますね」と言って帰ってきてしまい、その間に子どもが命を落としてしまうこともある。本市では、「また来ます」ではなく、その場で直接働きかける「行動する児童相談所」を目指していきたいと思っています。同所の職員は、専門職を含めて108人体制で構成していますが、上原さんはどのような資格を持っていますか。

上原 私は社会福祉士を持っています。これまでに何度



富岡 賢治市長

児童虐待の相談が増加する中、高崎の子どもを高崎で守るため北関東の中核市で初となる児童相談所の設置を決意。行動する児童相談所として専門職を配置するなど迅速な対応を実施。



むらつばき 村椿 正美さん

高崎警察署生活安全課長。児童相談所への出向や生活安全課長を歴任するなど、子どもの安全を守るため、家庭問題などにも対応してきた。任務遂行の際には耳を傾けることを大事にしている。

訪問してもドアを開けてもらえない家庭もありました。そのために作戦会議じゃないですけど、1つの家庭に対して、専門職の職員を含めて、みんなで意見を出し合い、団結してやっています。

市長 案件ごとにワーキングチームを作ってフォローをしていくことは必要ですね。それでも不測の事態が起こる可能性もあるので、警察のご協力がなければやっていけないと私は思っています。村椿さんも、家庭に入って対応をする時は神経を使うでしょう。

村椿 児童虐待の疑いがある場合には、まず子どもの安全確認を行います。そのあとに親御さんなどから話を聞きます。話を聞かなければ事実が分からないこともあるので、一方的に警察が注意や指導をするのではなく、どうしてこうなったのかをしっかりと確認をすることが大事だと考えています。

市長 警察と児童相談所が一致しているのは「子どもを死なせてしまっはいけない」ということです。この一点は何があってもやっていかななくてはならない。高崎警察署と高崎北警察署の皆さんが全面的に協力して下さることになり、とてもありがたいです。家庭に入って対応すると、トラブルになることもあります。専門家の意見をいただくために、弁護士の方にも入ってもらい、しっかり対応していると考えています。館山さんも家庭のいろいろな問題に対応されてきたと思いますが、児童相談所の非常勤弁護士をやることについてどうお考えですか。



館山 史明さん

高崎市児童相談所の非常勤弁護士。平成20年から弁護士として多くの事案に対処している。特に子どもと家庭の問題について経験が豊富。自身も3児の父として子育て中。

館山 子どもの安全と命、これが何よりも大事なので、それを守るためには、毅然とした対応が必要です。一時保護という制度は、子どもの安全を確保し、家庭の調査や評価を行うために作られた制度ですから、躊躇することなくやっていかなければと思っています。ただ、保護者の方がいろいろと主張してくるケースは良くあることなので、そこは弁護士としてスタッフを支える、あるいはスタッフの1人として共に対応していくという気持ちでいます。高崎市の児童相談所は3人の弁護士が非常勤で週3日いるので、サポート体制は厚くなるのかなと思っています。

市長 弁護士の方に側にいていただけることは、大事なことです。館山さんにはお力添えいただけてありがたいです。児童相談所の職員には、館山さんや村椿さんのように、後ろでサポートしてくれる人がいるので、心配しないで取り組んでほしいと思うんです。

上原 とても頼もしいです。実際に現場で警察官の方と一緒に入っていただいたこともあり、もしもの時には守ってもらえるという心の支えがあるので、毅然とした対応を取ることができます。

愛称を付けて相談しやすい施設に

市長 児童相談所は虐待対応以外にも、子どもの育て方で悩む親御さんからの相談にも対応することになります。なので、児童相談所という固い名前ではなく、愛称を付けた方がいいと職員から提案がありました。子どもは多様な個性、いわば色彩を持っているので「ぱすてる」がいいと言われ、私もそれがいいと考え「ぱすてる」に決めました。悩みを抱えているご家庭に寄り添い、ゆったりと相談に乗るような運営をしていきたいと思っています。中山所長、児童相談所はいろんな相談業務があるんですよね。

中山 虐待の対応をすることも救済課の他、発達障害などの相談に乗ることも発達支援課があります。子育てに関する幅広い悩みの相談を受け付けており、関係機関と連携をとりながら早期支援につなげることができます。

市長 本市では、働きながら子育てしている家庭を電話一本でお手伝いに行く「子育てSOSサービス」という制度を作ったんです。世代間で子育ての考え方が違うこ



中山 直美さん

高崎市児童相談所長。令和元年にこども救済センター所長に就任以降、児童福祉関連の部署を歴任し、全国の中核市で6番目となる児童相談所の開所準備を進めてきた。



ひさみ 上原 久実さん

高崎市児童相談所職員。社会福祉協議会や医療機関などでの経験を生かし、児童福祉司として虐待対応を最前線で行っている。自身も子育てに奮闘中。

とがありますが、大変な時は遠慮なく使ってほしいと思っています。

館山 児童相談所に対して、「俺たちはたたかれて育ってきたんだから『しつけ』で子どもをたたいて何が悪い」というようなことを平然と話す家庭がまだまだあるんですよね。でも、たたくことは犯罪です。子どもをたたくことは虐待であり、犯罪であると、価値観をアップデートしていかなきゃいけない。個別に指導することはもちろんですが、市全体として「それはだめなんだよ」という認識を広げていくことも必要なかなと思っています。

市長 そうですね。価値観を変えていくことは必要だと思います。警察でもいろいろな相談がありますよね。話をして、分かったよと言っても、実際は理解してくれていないことも多いと思います。

村椿 警察の指導に対して「分かりました」と言う人がほとんどですが、中には同じことを繰り返してしまう人もあるので、このような場合で犯罪に抵触するようであれば、「事件」として取り扱うこともあります。指導で効果がなければ、そういう手段が必要になることもあります。児童虐待は警察と児童相談所がしっかりと情報共有などをしながら双方で関わっていくことが大事だと考えています。

連絡することをためらわないで

市長 虐待を知るきっかけは、学校や市民からの連絡によるところが大きいと思います。他人の家庭のことを先生や児童相談所に連絡するのはなかなか勇気のいることです。連絡していただければ、速やかに対応する体制は整っていますので、市民の皆さんには連絡を恐れないでほしいです。

中山 虐待の疑いがあれば、^{ゴーチはやく}027-345-5189に連絡してください。24時間体制で電話を受け付けています。緊急時には速やかに出動します。

市長 子どもを守るのは自治体に与えられた責務です。「高崎の子どもは高崎で守る」の決意で心をつ一つにして対応していきたいと思っています。本日はありがとうございました。

一同 ありがとうございました。

児童虐待相談窓口

■ 高崎市児童相談所(24時間)

^{ゴーチはやく}
☎027-345-5189

連絡した人のプライバシーは守られます



対談の様子を動画で
ご覧いただけます

